

令和4年度

教職課程

自己点検評価報告書

令和5年3月

広島文化学園短期大学

広島文化学園短期大学 教職課程認定学科一覧

- ・コミュニティ生活学科
- ・食物栄養学科
- ・保育学科

大学としての全体評価

教職課程の自己点検・評価については、教育職員免許法施行規則第22条の8に「認定課程を有する大学は、当該大学における認定課程の教育課程、教育研究実施組織、教育実習並びに施設及び設備の状況について自ら点検及び評価を行い、その結果を公表するものとする。」とされており、令和4年4月1日から施行されたところである。さらに第22条の7では、「2以上の認定課程を有する大学は、当該大学が有するそれぞれの認定課程の円滑かつ効果的な実施を通じて当該大学が定める教員の養成の目標を達成することができるよう、大学内の組織間の有機的な連携を図り、適切な体制を整えるものとする。」とされ、全学的なマネジメントの機能充実が求められている。

本短期大学では上記3学科で、幼稚園教諭、中学校教諭（家庭科）、栄養教諭の教職課程を有している。この度、本報告書に示す通り、全学的な教職課程の自己点検・評価を行い、その結果を公表することとなった。教職課程に係る教職員に関する「基準領域1」、学生とキャリア支援に関する「基準領域2」、教職課程カリキュラムと地域連携に関する「基準領域3」、いずれも適格で基準を満たしていることが確認された。

しかし同時に課題も抽出されており、例えば今年度開設された「教職支援室」の学生目線での充実、ICT活用能力の強化育成は、本学教職課程においてさらに取り組むべきことが指摘されている。また、2年間の圧縮された短期大学教育課程の中で教職を志す学生の意欲をいかに高め維持するか、目的養成の保育学科も含めとりわけ選択開放制のコミュニティ生活学科と食物栄養学科の学生には支援が必要である。

本報告書をもとに、学内の教職担当教職員が理念を共有して課題に取り組むこと、そして公表された状況を学外からの視線でご批評いただくことを期して、今回はじめての広島文化学園短期大学の教職課程自己点検報告書を作成いたします。

広島文化学園短期大学

学長 坂越正樹

目次

I	教職課程の現況及び特色	1
II	基準領域ごとの教職課程自己点検評価	3
	基準領域1 教職課程に関わる教職員の共通理解に基づく協働的な 取り組み	3
	基準領域2 学生の確保・育成・キャリア支援	8
	基準領域3 適切な教職課程カリキュラム	14
III	総合評価	18
IV	「教職課程自己点検評価報告書」作成プロセス	20
V	現況基礎データ一覧	22

I 教職課程の現況及び特色

1 現況

- (1) 大学名：広島文化学園短期大学
- (2) 学科名：コミュニティ生活学科，食物栄養学科，保育学科
- (3) 所在地：広島県広島市安佐南区長東西 3 丁目 5 番 1 号
- (4) 学生数及び教員数

(令和 4 年 5 月 1 日現在)

学生数： コミュニティ生活学科 教職課程履修 14 名／学科全体 170 名
食物栄養学科 教職課程履修 11 名／学科全体 82 名
保育学科 教職課程履修 120 名／学科全体 140 名

教員数： コミュニティ生活学科
教職課程科目担当（教職・教科とも）6 名／学科全体 7 名
食物栄養学科
教職課程科目担当（教職・教科とも）2 名／学科全体 8 名
保育学科
教職課程科目担当（教職・教科とも）8 名／学科全体 9 名

2 特色

〈コミュニティ生活学科〉

コミュニティ生活学科では、衣、食、住、人間関係等の生活に関わる幅広い専門知識と技能を養い、個性豊かな生活づくりと地域社会の文化形成に貢献できる人材を育成することを目的とする。特に、教職課程では、具体的な内容や方法を実践的に学ぶ教職科目や、中学校の協力と指導のもとで行われる教育実習、介護等体験をとおして、教職への理解を深め、教職に就くという目標に向けて力をつけていくことを目指している。

コミュニティ生活学科：中学校教諭二種免許状（家庭）

〈食物栄養学科〉

食物栄養学科では、食と健康に関わる専門的な知識と技能を養い、栄養士として健康的で人間性豊かな生活づくりを指導できる人材を育成することを目的とする。教職課程では、幅広い教養を備え、基礎資格となる栄養士としての食に関する専門知識と技能を身につけ、小学校・中学校における給食業務や児童・生徒への食育を実践できる栄養教諭を養成する。食物栄養学科の特色は、HBG夢カルテと教職履修カルテを用いた学修支援、実験実習の多い専門的カリキュラム、豊かな心を育む学科行事やボランティア活動などがある。

食物栄養学科：栄養教諭二種免許状

〈保育学科〉

保育学科では、保育・幼児教育に関する専門的知識と技能を養うとともに、社会の多様な保育ニーズに対応できる実践力と豊かな人間性を有した保育者（幼稚園教諭・保育士・保育教諭）を養成することを目的とする。学習者中心の視点から学生のニーズに対応して、教養教育・専門教育・キャリア教育の三位一体となった教育課程を編成し、学生が主体的・能動的に学修するアクティブ・ラーニングや実践活動を重視した教育を実施している。

保育学科：幼稚園教諭二種免許状

II 基準領域ごとの教職課程自己点検評価

基準領域 1 教職課程に関わる教職員の共通理解に基づく協働的な取り組み

基準項目 1-1 教職課程教育の目的・目標を共有

〔現状説明〕

広島文化学園短期大学は、建学の精神である「究理実践」に基づき、専門の知識・技術、職業又は實際生活に必要な能力を身に付けるとともに、「対話の教育」のもと幅広く深い教養及び総合的な判断力を培い、豊かな人間性を涵養し、地域社会及び国際社会の発展に貢献できる人材を育成することを目的としている。上記の目的を基に、短期大学コミュニティ生活学科、食物栄養学科、保育学科では、卒業の認定に関する方針を定め、各学科の専門知識を活かした教育者を育成することを目標としている。これらは、『学生生活の手引き』『履修の手引き』に掲載するとともに、「広島文化学園短期大学ホームページ」にも公開している。また、年度当初に実施しているオリエンテーション等において学生に周知している。

本学では、専門性を活かした教育者の養成を実現するため、ディプロマ・ポリシーと教職課程カリキュラムの関連性を示したカリキュラムマップを通して教職課程カリキュラムの全体を関係教職員間で共有し理解を深めている。また、教職関連科目等の内容及びシラバスのチェック、改善については、教職課程運営委員会を中心に調整が行われている。

教職課程教育の目標に対する自己の学修成果は、「短期大学教職履修カルテ」「HBG 夢カルテ」、「学修履歴証明書」を用いて可視化され、学生の成長課題の設定に活かされている。

コミュニティ生活学科

コミュニティ生活学科における教職課程では、家庭科の中学校教諭を養成することを目的としている。加えて中学校の学級担任として求められる資質能力の育成の

ため、教職課程運営委員会を中心に関係教職員間で教職課程の目的・目標の共有と実施・改善を行っている。

食物栄養学科

食物栄養学科における教職課程では、小学校及び中学校における給食管理と食に関する指導を行える栄養教諭を養成することを目的としている。教職課程運営委員会において各学科の教職課程の目的・目標を共有するための機会を設けており、本学科における教職課程カリキュラムの実施及び改善を行っている。

保育学科

保育学科における教職課程では、音楽・図画工作・体育などの実技を身につけた、即戦力になることができる幼稚園教諭の育成を目的としている。教職課程運営委員会において教育課程の目的・目標を共有し、教職課程の実施・改善を行っている。

〔長所・特色〕

コミュニティ生活学科

家庭科教諭養成のための実習をはじめとした「教科及び教科の指導法に関する科目」と「教育の基礎的理解に関する科目」及び教養科目を学ぶ。その学修成果については「教職履修カルテ」「HBG 夢カルテ」で確認しながら学修を進めている。

食物栄養学科

栄養士養成のための専門的な学びを基礎とする学科カリキュラムに加えて、教職に関する科目を学ぶ。教職課程教育の目標に対する自己の学修成果は、学修履歴を蓄積した「教職履修カルテ」「HBG 夢カルテ」を用いて可視化され、学生は自らの履修状況の確認や課題の設定に活かしている。

保育学科

幼稚園教諭二種免許状取得に必須となるカリキュラムに加え、音楽表現・造形表現・身体表現に関する実技の育成を重んじており、関連科目を学科の特色科目としている。教職課程教育の目標および学期終了時の学修成果については、「教職履修カルテ」「HBG 夢カルテ」を用いて可視化され、学生は自ら確認することができる。

〔取り組み上の課題〕

コミュニティ生活学科

「将来の選択肢が増える」という理由で教員免許状取得を目指す学生もおり、「教員になりたい」という意志がなければ資格取得までのモチベーションを維持することは難しいと感じることもあった。中学校教員として求められる資質や適性について「履修ガイダンス」で丁寧に説明する必要がある。

食物栄養学科

栄養教諭の免許取得希望者は減少しており、令和 4 年度は 3 名が免許を取得した。令和 4 年度入学生においては、前期開講の教職科目の 2 科目における履修登録者は 8 名あったが、その後 7 名が辞退を申し出たため、前期の終了時は 1 名のみ単位を修得した。後期は、その 1 名も資格取得を辞退した。資格のための履修科目数が多く、学生達の負担感が増しているものとする。今後は、栄養教諭二種免許状資格の魅力を伝え、資格取得希望者を増やすことが必要である。

保育学科

実技などを重視した幼稚園教諭の養成は、学生の履修科目数に影響しており、近年、学生の授業数や課題の負担についての問題が浮上している。その点を踏まえたカリキュラムのスリム化の検討が必要である。

<根拠となる資料・データ等>

- ・資料 1-1-1：広島文化学園短期大学『令和 4 年度 学生生活の手引き』, 13-18
- ・資料 1-1-2：広島文化学園短期大学『令和 4 年度 履修の手引き』
- ・資料 1-1-3：広島文化学園短期大学教職課程運営委員会規程
- ・資料 1-1-4：広島文化学園短期大学 HP 「教員養成の目標及び当該目標を達成するための計画」

(URL) <https://www.hbg.ac.jp/docs/info/jouhoukoukai/pdf/1mokuhyou.pdf>

(令和 5 年 1 月 24 日確認)

基準項目 1 - 2 教職課程に関する組織的工夫

〔現状説明〕

広島文化学園短期大学における教職課程の教員配置は、文部科学省による課程認定の基準を満たしている。短期大学では、教職課程に関する事項について総合的に協議し、教職指導の全学的な充実を図ることを目的に、教職課程運営委員会が設置されている。教職課程運営委員会は、副学長、学生部長、学生部教務次長、各学科の教職課程参与、学生部次長（事務）、学生部教務課教職担当によって構成され、協働体制により運営されている。同運営委員会の所掌事項は、①本学における教員養成に係わる教育の質の向上に関する事項②カリキュラムの検証と改善に関し、各学科の調整に関する事項③教育実習の実施に関する事項④その他、教職課程の運営に関する事項である。また、教職課程運営委員会は、学生の ICT 活用支援のための ICT 支援員、教職支援担当のキャリアセンタースタッフと連携し、相互の役割分担が図られ、教職課程の在り方を見直す全学組織として機能している。

〔長所・特色〕

コミュニティ生活学科

学科の教職担当教員が教職課程運営委員会に出席し、コミュニティ生活学科全教員との情報共有を行い、課題の把握や教育改善に役立っている。

食物栄養学科

学科の教職担当教員が教職課程運営委員会に出席し、食物栄養学科全教員との情報共有を行い、課題の把握や教育改善に役立っている。

保育学科

学科の教職担当教員が教職課程運営委員会に出席し、保育学科全教員との情報共有を行い、課題の把握や教育改善に役立っている。

〔取り組み上の課題〕

学科教員と教職支援担当のキャリアセンタースタッフとの連携強化が必要であり、学生に十分な指導の機会を包括的に提供するため、教職課程運営委員会を中心

に、組織的連携について検討する必要がある。

教育の電子化が進んでいる今日において、ICT 支援員とも連携し、学生の ICT 教育環境をさらに改善する必要がある。

<根拠となる資料・データ等>

- ・資料 1 - 2 - 1 : 広島文化学園短期大学教職課程運営委員会規程

基準領域2 学生の確保・育成・キャリア支援

基準項目2-1 教職を担うべき適切な学生の確保・育成

〔現状説明〕

広島文化学園短期大学の教員養成の目標等はアドミッション・ポリシーに対応しており、大学案内、ホームページやオープンキャンパスを通して受験希望者に周知され、入学後オリエンテーション及びガイダンスで各学科アドミッション・ポリシーに基づき各種免許状毎に教職指導を行っている。教職課程の履修受け入れについては、特定の人数を定めず、教員と学生が必要に応じて面談を行い、ディプロマ・ポリシーを踏まえた学生個々の希望と適性に沿って教職課程の履修指導を行っている。

教職履修指導、育成状況については、「HBG 夢カルテ」及び「教職履修カルテ」を活用し、教員養成に必要な教職関連科目の振り返り、身につけるべき知識技能・態度等を総合的に把握し、自己理解、確認を行っている。また、本学キャリアセンターが学生育成、進路指導に力を尽くし、教職課程運営委員、各学科と連携することで授業外の学習環境を整えている。

コミュニティ生活学科

本学科における教職課程（中学校教諭二種免許状（家庭））の履修については、入学後オリエンテーションで受講資格や履修条件等のガイダンスを行い、「教職履修カルテ」によって個々の学生の学修状況の把握、自己理解、課題の確認を行っている。

食物栄養学科

本学科における教職課程（栄養教諭二種免許状）の履修については、入学後オリエンテーションで受講資格や履修条件等のガイダンスを行い、1年前期終了時から卒業時まで、「教職履修カルテ」を活用し、教員を目指すために必要な教職関連科目の履修状況（学修成果）の確認と各自の課題を整理している。

保育学科

本学科の教職履修指導（幼稚園教諭二種免許状）は、新入生オリエンテーションにおける受講資格や履修条件の説明から始まっている。毎年新入生のほぼ全員が免許を取得希望のため、教職課程の履修についてはチューターと緊密に連携を取りながら指導を行っている。そのうえ、1年前期終了時から卒業時まで、「教職履修カルテ」を活用し、教職関連科目の履修状況（学修成果）の確認と各自の課題を整理している。

〔長所・特色〕

教職科目の授業担当者が「教職履修カルテ」を活用し、教員を目指すために必要な教職関連科目の履修状況（学修成果）の確認と各自の課題を整理しながら、担当教員とチューターとで連携し指導に当たっている。

〔取り組み上の課題〕

コミュニティ生活学科

2年次に教育実習と教員採用試験の時期が重なるため、学生の試験対策の時間が十分に取れないという課題がある。1年次から採用試験対策を行う必要がある。また他の都道府県の教職志望学生のためキャリアセンターと連携し情報収集することが今後より重要になると考える。

食物栄養学科

食物栄養学科は栄養士を目指す学生の入学がほとんどで、栄養教諭を目指している学生は少数である。令和4年度入学生は前期の早い段階で教職科目の履修を辞退し、最後まで履修していた学生も後期から教職科目の履修を辞退しており、栄養教諭資格を取得することの魅力が十分に伝わっていないことが課題である。また、2年次に行われる教員採用試験対策として、キャリアセンターと連携した対策講座や指導及び支援等が必要である。

保育学科

採用試験対策を必要とする公立幼稚園に就職希望の学生は少ないが、希望学生に対して、キャリアセンターと連携した公立幼稚園の採用試験対策講座などの支援等

が必要である。

<根拠となる資料・データ等>

- ・ 資料 2-1-1 : 大学案内
- ・ 資料 2-1-2 : 広島文化学園短期大学ホームページ「コミュニティ生活学科」
(URL) <https://www.hbg.ac.jp/univ/community.html>
- ・ 資料 2-1-3 : 広島文化学園短期大学ホームページ「食物栄養学科」
(URL) <https://www.hbg.ac.jp/univ/shoku.html>
- ・ 資料 2-1-4 : 広島文化学園短期大学ホームページ「保育学科」
(URL) <https://www.hbg.ac.jp/univ/hoiku.html>
- ・ 資料 2-1-5 : 広島文化学園短期大学「3つのポリシーとアセスメントポリシー/短期大学」
(URL) <https://www.hbg.ac.jp/info/policy/college.html>
- ・ 資料 2-1-6 : HBG 夢カルテ
- ・ 資料 2-1-7 : 教職履修カルテ

基準項目2-2 教職へのキャリア支援

〔現状説明〕

短期大学では、中学校教諭二種免許状（家庭科）、栄養教諭二種免許状、そして幼稚園教諭二種免許状の免許取得が可能である。

将来、教職に就きたいと考えている学生に対して、1年次では、年度初めの4月に履修ガイダンス（教職科目履修、採用試験受験、教育実習などの条件説明）を実施する。その後、免許状毎に課される教育実習にかかわっての取り組みが始まる。2年次に実施される教育実習における事前指導では、教職に対する心構えや責任、教育実践への理解等、個別指導も含めて指導している。事後指導では、実習での体験を踏まえて自己の教職に対する適性を理解するように指導している。教員採用試験を受験するに当たっては、4月から5月にかけて教員採用試験受験についての周知を図るとともに、人権教育、指導案の書き方、模擬授業指導、自己アピール文、小論文指導等を行っている。6月からは、教員採用試験に向けた専門科目、教職教養科目等の対策を行っている。一次合格者に対しては8月に模擬面接による指導を行っている。いずれの場合も、指導にあたっては「教師としての有り様（期待される資質）」をイメージして臨んでいる。

〔長所・特色〕

短期大学の教職履修学生の意欲・適性に関する指導の特色は、2年間という限られた時間の中で行われる実習を重んじている点にある。事前指導の中では、実習に際しての心構えや責任、そしてその意義、実習校（園）との交渉、挨拶をはじめとしたコミュニケーションの取り方、実習の中で何を学ぶか等々、さまざまな視点で指導を行っている。実習終了後は、それぞれの振り返りを行い、成長した自分を自覚し、教職に対する自らの適性をあらためて考え、判断する機会になっている。

教職履修学生に対するキャリア支援としては、教育委員会による教員採用試験説明会を開催し、教員採用試験対策を個別指導も含めて実施していることや、進路拡大となる各施設等への進路指導等も実施していることが挙げられる。

教職に関する情報提供については、キャリアセンター内の教職関係の掲示板、図書、そして図書館の教職コーナー等を通して学生のニーズに応じて行っている。

教員免許状取得件数や教員就職率を高めてより質の高い教員を育成するために、本学教員とキャリアセンターが連携して教職指導を行っている。また教育委員会による講話を聴く機会を設ける等、教員としての自覚を一層高めるよう支援を行っている。地域と連携しての教育活動ボランティアなど学外での活動や園児・児童・生徒との交流の中、教職について考える機会や実践的指導力を高める機会を提供することにより、キャリア支援の充実を図っている。

〔取り組み上の課題〕

短期大学の場合、在学期間が2年と短いため、できるだけ早い段階から教職支援への取組が求められるため、教職を希望する学生について、在学中の支援計画を立てて、関係者間の連携をよりきめ細かく行うことが必要である。

<根拠となる資料・データ等>

- ・資料2-2-1：教員採用試験説明会資料
- ・資料2-2-2：広島文化学園短期大学 HP「キャリア支援」

(URL) https://www.hbg.ac.jp/career/support_center.html

基準領域3 適切な教職課程カリキュラム

基準項目 3-1 教職課程カリキュラムの編成・実施

〔現状説明〕

広島文化学園短期大学の教育課程編成は、本学の建学の精神を具現化するカリキュラム・ポリシーに基づいて編成されており、各学科の専門科目とバランスを取りながらCAP制を取り入れ適切に運用している。また、全ての教職関連科目は、教育職員免許法および同法施行規則に従って開設され卒業単位として認定される。ICT活用能力の育成については、同法及び施行規則に基づく「情報通信技術を活用した教育の理論及び方法」に対応する科目を設置するなど、ICT活用指導能力を修得する力を育てる指導が適切に行われている。ICT活用を円滑に行うため、ICT支援室を中心にICTに関する各種システムを整え、開設科目の80%以上でアクティブ・ラーニング的要素を導入し、情報活用能力を活かした学びを可能にしている。さらに、各学科では、教職免許取得に必要な履修要件や心構えを「履修の手引き」やシラバスを用いて明示し、指導している。特に「教職履修カルテ」を活用して、履修について自己理解・自己管理を促し、学生自身が教職を目指す者として取り組む課題等について指導している。教職に係わる全てのシラバスには、学習内容及び評価方法を明記している。

学科専門科目、教養科目に加えて教職課程カリキュラムを編成し、教職科目に必要なコアカリキュラムに則したシラバスを作成し、授業を実施している。

〔長所・特色〕

コミュニティ生活学科

本学科は中学校教諭二種免許状（家庭）の取得のため、衣、食、住生活全般に関わる「生活学Ⅰ・Ⅱ」をはじめ各専門科目で幅広い知識と技能を身につけるカリキュラムとなっている。また、中学生やその保護者の心情に寄り添えるよう「社会心理学」「人間関係論」などでコミュニケーション力を育て、「家庭科教育法」「教職実践演習」で指導案を作成し、模擬授業を行い実践力を養っている。

食物栄養学科

本学科では、栄養教諭二種免許状の基礎資格となる栄養士の専門科目を体系的に学び、特に学校給食の運営に必要な「給食計画・実務論」及び「給食計画・実務論実習」などで実践力を身に付けている。また、学校現場における食に関する指導を行うために、「教育方法論」、「学校栄養教育論」、「栄養教育実習」では、特に学習指導案の作成や模擬授業等を行っている。「教職実践演習(栄養教諭)」においては、栄養教育実習での体験を振り返りながら、栄養教諭として必要な資質をさらに学んでいる。また、「教職履修カルテ」を活用しながら、学生自身が自己点検評価を行い、学修成果の把握や課題解決に役立てている。

保育学科

本学科は幼稚園教諭免許状と保育士資格の取得に特化した学科として、卒業後に即戦力として働けるため保育実技の養成を重んじている。とりわけ「身体表現領域」、「造形表現領域」、「音楽表現領域」の指導法に関する授業において実践的指導力の育成に力を入れている。

〔取り組み上の課題〕

コミュニティ生活学科

家庭科教諭としての知識や技能を身につけるための専門科目に多くの時間を必要とし、教師の資質にもかかわる教養科目、教職科目に関しては他学科との同時開講授業もあるため時間割編成が難しく学生の負担感が大きい。そのため時間的な余裕がなく、実践力につながるようなボランティア活動、地域活動などができていないことも課題である。

食物栄養学科

栄養士のための専門科目に加えて、教職科目は他学科との同時開講授業も多く配置されており、時間割編成が難しくなっている。また、教職科目の開講数のバランスが偏っており、1年次後期からの科目数の増加に伴い、学生達の履修に対する負担感が大きいことが課題となっている。

保育学科

保育実技の養成を重んじ、実技系の科目を多く設けているため、学生の負担も大きく、実践力にもつながるボランティア活動などに時間を割くことが難しくなっている。専門科目と社会活動による実践力養成のバランスを考慮したうえで、カリキュラムを見直す必要がある。

<根拠となる資料・データ等>

- ・資料 3 - 1 - 1 : 広島文化学園短期大学『令和 4 年度 履修の手引き』
- ・資料 3 - 1 - 2 : 学校法人広島文化学園 広島文化学園短期大学「学校教育法施行規則に基く情報公開：シラバス情報検索」(URL)

http://syllabus.hbg.ac.jp/Pages/Guest/GS000/SY601_Find_Subject_Contents.aspx?type=kounai

- ・資料 3 - 1 - 3 : 教職履修カルテ

基準項目 3-2 実践的指導力育成と地域との連携**〔現状説明〕**

短期大学の教職課程における実践的指導力を育成する機会として、各種免許状毎の「教育実習」を中心に指導が実施されている。実習指導では、各種学校・園の実習に係わる事前事後のオリエンテーションに加え、各学生の実習先に合わせた実践指導力を育成している。

コミュニティ生活学科

本学科では、実践的指導力の育成のため、1年次の「教育方法論」「家庭科教育法」、2年次の「教育実習」「教職実践演習」の授業内で、指導案作成と模擬授業を行う機会を設けている。授業内で相互評価し、改善につなげている。

食物栄養学科

本学科では、実践的指導力を育成する機会としては、学内での模擬授業がある。2年次前期の「栄養教育実習」の授業内で、一人ずつが模擬授業を実践できる機会を設けており、授業後は相互評価を行い、授業の振り返りと課題の改善につなげている。

保育学科

本学科では、実践的指導力の養成のために、学科全体で「教育実習」の指導・支援を行っている。「教育実習」の事前・事後指導・模擬保育はもちろん、他の教職関連科目においても指導案の作成、模擬保育などを行っている。

〔長所・特色〕

コミュニティ生活学科

地域の「ワクワクながつかとうべえ祭り」にボランティアとして参加し、近隣の幼稚園、保育園、小中学校に絵本の提供を呼びかけ「絵本のリサイクル」に取り組んでいる。参加した学生については地域のさまざまな人々と関わることで実践力とコミュニケーション力を育むことができている。

食物栄養学科

学科専門科目にある「栄養指導各論実習Ⅱ」において、地域住民を対象とする栄

養指導の実践の機会などを設けている。また、食物栄養学科のボランティア活動において、地域貢献を行う機会を設けており、豊かな心を育む機会となっている。

保育学科

授業内外の時間を使って、本学の子育て支援研究センターが設置している「ぶんぶん広場」において地域交流を行っている。「ぶんぶん広場」に来ている乳幼児や保護者たちと触れ合うことで、保育の実践力を高めるだけでなく、子育て支援や子どもの心理など座学で学ぶ知識への理解もさらに深めることができている。

〔取り組み上の課題〕

コミュニティ生活学科

地域との連携については、学科の専門科目やボランティア活動、学科行事の中でどう取り組んでいくか、どうすればより実践的な指導力を育てていけるのか、今後さらに検討したい。

食物栄養学科

実践的指導力養成の機会には多様な学びから得ているが、教職科目においては、学内模擬授業を中心としている。受講生が少ないことから、多様なテーマや実践形式での授業を行うことは難しい。現状では、時間的な余裕がないが、地域との連携も実施していきたい。

保育学科

学生の実践的指導力養成のため、「ぶんぶん広場」だけでなく、今後は近隣の幼稚園・こども園と連携をさらに図っていく必要がある。

<根拠となる資料・データ等>

・資料3-2-1：学校法人広島文化学園 広島文化学園短期大学「学校教育法施行規則に基く情報公開：シラバス情報検索」(URL)

http://syllabus.hbg.ac.jp/Pages/Guest/GS000/SY601_Find_Subject_Contents.aspx?type=kounai

Ⅲ. 総合評価

短期大学（基準領域別）及び各学科における教職課程自己点検評価をまとめると以下の通りである。

【基準領域 1】

本学の教職課程が目指す教師像は、本学の建学の精神に基づき作成されたディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー及びアドミッション・ポリシーに整合的に具体化され、各学科の特徴を踏まえ学生への周知が図られている。また、教職課程を運営する組織である「教職課程運営委員会」が、全学科教職担当教員及び関連教職員と協働的に運営する組織体制を整えている。

【基準領域 2】

本学のアドミッション・ポリシーは、受験希望者に対して、大学案内・ホームページ・オープンキャンパスを通して周知され、入学後オリエンテーション及びガイダンスにおいて教職希望学生に履修基準を明確に示し厳正に運営・指導を行っている。また、「HBG 夢カルテ」、「教職履修カルテ」を通して教職課程履修学生の学修の進捗状況や成果、意欲等の振り返りを積極的に行い、教職に関する学修指導に活用している。学生情報は、教職課程運営委員会及び担当教職員全員で共有され、教職に向けた試験対策、キャリア支援に取り組んでいる。

【基準領域 3】

本学の教職課程カリキュラムの適切性は、教職課程関連の教職員の共通理解を前提とし、教職課程運営委員会を中心にチェックが実施されている。さらに、コアカリキュラム、カリキュラムマップやシラバスについては、本学教育課程運営委員会で積極的に確認が行われ、教職課程関連科目等の系統的な適性を担保している。

コミュニティ生活学科

本学科では中学校教諭二種免許状（家庭）取得を目指す学生が近年増加傾向にある。昨年度、今年度は教員採用試験にも合格しており、学生の学習意欲を向上させていると思われる。教育実習での体験は教員志望学生としてだけでなく人間としての成長に繋がっている。近年、教員を目指す学生が減少する中で、本学の学生が実

際に教育現場に出て活躍できるよう、より実践的な学びと指導力強化を目指し、授業内容の充実、教職員間の連携、履修指導、支援を続けていく必要があると考える。

食物栄養学科

本学科は、栄養教諭二種免許状取得が可能となるための教職課程が適切に配置されており、毎年数名が免許状を取得している。関連する教職員の理解も得られており、教職課程における学びは適正に実施されている。令和4年度は2年生3名が小学校において栄養教育実習を行い、確実に学生の成長に繋がっている。令和4年度入学生は入学当初は教職希望者が8名いたが、その後辞退者がでたため、後期には取得希望者は不在となった。次年度に向けて、栄養教諭の魅力を伝え、教職免許取得のための履修指導や授業の課題を把握し、栄養教諭二種免許状の取得を支援していく。

保育学科

本学科では、入学者のほとんどが幼稚園教諭免許状を取得希望のため、教職課程カリキュラムの履修指導については教職課程担当者のみでなく、チューター全員がきめ細かい指導を行っていることが特徴である。その成果として、毎年9割以上の卒業生が幼稚園教諭免許状を取得している。今後は、保育現場の動向に合わせてカリキュラムを改善するとともに、地域の幼稚園・こども園との連携も視野に入れつつ、学生の幼稚園教諭二種免許状の取得を支援していく。

短期大学における教職課程の改善に向けた課題は、以下のとおりである。

- 第1に、教職課程運営委員会とキャリアセンターが連携した包括的教職支援の向上
- 第2に、ICT活用能力の更なる育成に向けた教職支援体制の構築
- 第3に、短期間で実践的指導力を育成するためのプログラム改善

IV 「教職課程自己点検評価報告書」作成プロセス

第1プロセス：教職課程センター等による自己点検評価の実施決定・合意（令和4年5月11日）

- ・本学における教職課程運営委員会において、各学科における教職課程の自己点検評価を実施することが提案された。
- ・全ての学科においてその提案が承認され、合意を得た。

第2プロセス：教職課程センター等による法令由来事項の点検と各教職課程へのデータ等の扱いについての意見聴取（令和4年5月11日）

- ・教職課程運営委員会において、教職カリキュラムの編成や授業シラバスについての法令などに基づいた点検確認を行う。
- ・教職免許の取得者数・就職者数等のデータについて、教職担当事務職員や就職キャリアセンター事務職員を中心に、データ集約・申請・情報公表を行う。

第3プロセス：各教職課程による自己点検評価の進め方の検討・協議（令和4年11月4日）

- ・教職課程運営委員会において、自己点検に必要なデータを収集するため、全私教協「教職課程自己点検・評価基準」の取り組み観点例ごとのエビデンス集を作成する。
- ・上記エビデンス集を基に、各基準領域の基準項目ごとに執筆。

第4プロセス：教職課程センター等と各学部教職課程との実施手順の最終調整（令和5年1月25日）

- ・教職課程運営委員会において、各学科で作成したものについてフォーマットを含めた調整を実施。

第5プロセス：教職課程の自己点検評価の実施（令和5年3月8日）

- ・短期大学全体からエビデンス集を収集。
- ・エビデンス集を基に各担当者が原稿執筆。
- ・教職課程運営委員会で全体の読み合わせ

第6プロセス：「教職課程自己点検評価報告書」の確定・公表（令和5年4月7日）

第7プロセス：「教職課程自己点検評価報告書」を基礎とした教職課程に関わる新たなアクション・プランの策定（令和5年4月28日）

V 現況基礎データ一覧

令和4年5月1日現在

法人名 学校法人広島文化学園					
大学 広島文化学園短期大学					
学科・コース名（必要な場合） コミュニティ生活学科 食物栄養学科 保育学科					
1 卒業者数，教員免許状取得者数，教員就職者数等					
① 昨年度卒業者数					208
② ①のうち，就職者数 (企業，公務員等を含む)					177
③ ①のうち，教員免許状取得者の実数 (複数免許状取得者も1と数える)					77
④ ②のうち，教職に就いた者の数 (正規採用＋臨時的任用の合計数)					22
④のうち，正規採用者数					21
④のうち，臨時的任用者数					1
2 教員組織					
	教授	准教授	講師	助教	その他（助手）
教員数	10	2	6	2	3
相談員・支援員など専門職員数				1	